

社会文化学専攻の概要と特色

本専攻は、社会学と社会史の2研究分野から成る。それぞれの研究の深化、発展に努めるとともに、専門関連科目をも含め、それらを有機的に関連させ、新たな研究の地平を切り拓こうとする。

(1) ディプロマ・ポリシー

本専攻に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格すれば修士（文学）の学位が授与される。

その際に、次のような能力や資質を身につけていることが求められる。

1. 多角的な視野に立った学識と専攻分野における優れた研究能力
2. 高度な専門性を要する職業等に必要の高等能力
3. 社会学・社会史分野における、社会文化に関する洞察および問題解決の能力

(2) カリキュラム・ポリシー

人間社会の諸現象を考察するために、社会学と社会史の2研究分野を設ける。

社会学分野では、とくに地域社会学、家族社会学、社会集団・組織論、社会心理学、宗教社会学の諸領域の方法によって、現代社会の構造や機能を明らかにしていく。

社会史分野では日本・アジア・ヨーロッパの3地域をそれぞれ対象とする社会史と、隣接する学問領域である考古学および民俗学によって、先史時代から現代に至る社会とその文化を考察する。

さらに専門関連科目として社会・地理歴史科教育、社会言語学、社会文学、文化人類学、社会倫理学、社会哲学の各特論を開講して、2分野の教育・研究内容がより豊かになるように配慮している。

このようなカリキュラムにより社会と文化に対してトータルなアプローチを可能にする。

(3) アドミッション・ポリシー

本専攻では次のような人材を求めている。

社会や文化に対する強い探究心を持ち、社会現象を共時的、通時的にとらえる幅広い視野を備え、研究者として自立した問題解決能力を獲得しようとするもの。